

図書館だより

- ①樋口美雄他編著『人事経済学と成果主義』日本評論社 (ix+238頁,A5判)
「人事経済学」という言葉には、どうしても違和感を感じてしまう。喧わすぎらしいな面がたぶんにあるが、労務管理の効率性を経済学的手法で分析しても、労使の人事をめぐる駆け引きをどれだけ予測・類推できるのか疑問に思うからである。本書がそれにどれだけ成功しているかの判断は、無論専門家に委ねられている。
- ②廣川進著『失業のキャリアカウンセリング』金剛出版 (230頁,A5判)
失業は、人生において上位に位置する過酷な体験である。その苦しい失業から脱却し、再就職に結びつくためには、いかなるカウンセリングを行うべきか。キャリアカウンセリング、心理カウンセリングの両面から事例を紹介している。再就職支援会社での5年間の著者のカウンセラーとしての力量と経験が示されている。
- ③前田信彦著『アクティブ・エイジングの社会学』ミネルヴァ書房 (x+272頁,A5判)
本書は、アクティブ・エイジングをキーワードに高齢期の職業、生活、コミュニティへの参加等の諸相を明らかにしようとしている。どのような状況であっても自己決定できる生活は、すべての人の望みである。高齢者も社会を支える一員であり、その視点から、雇用・労働政策、家族・コミュニティ政策を模索している。
- ④岡本浩一他著『職業的使命感のマネジメント』新曜社 (ix+112+11頁,B6判)
本書は「組織の社会技術」シリーズの一冊であり、職業的使命感を高める方策を探るため職業的自尊心を職業的・職務的自尊心に分解し、技能と社会的責任の両面からそのマネジメント方法を追求している。消防官を事例とする本書の分析によって、職業的使命感の麻痺の原因とする企業不祥事が削減することを望みたい。
- ⑤秋山真志著『続職業外伝』ポプラ社 (262頁,B5判)
2005年3月発行の続刊である。今回も恐山のイタコ、流しなどの外伝に相応しい8職業が取り上げられている。職業選択の経緯は各々だが、天職に辿りついた人の物言いは清々しい。著者もあとがきで述べているが、職業を探しあぐねている若い人に薦めたい一書である。手を拱いているより、まずは動いてみることである。
- ⑥下平尾勉他編著『地域産業の再生と雇用・人材』日本評論社 (x+320頁,A5判)
バブル経済崩壊で最大の打撃を受けたのは、やはり地域の産業経済であろう。雇用機会の喪失、人材の流失、地域産業の活力低下をもたらしたが、これらの3つ課題に対し、東北と九州地域を対象に地域の実情を描写している。国土の均衡ある発展のためには、特に、格差の大きい地域の再生が望まれているからである。
- ⑦青山和佳著『貧困の民族誌』東京大学出版会 (xi+414頁,A5判)
- ⑧伊達浩憲他編著『自動車産業と生産システム』見洋書房 (vii+199頁,A5判)
- ⑨北九州市立男女共同参画センター「ムーブ」編『ジェンダー白書4』明石書店 (352頁,A5判)
- ⑩石川源嗣著『ひとのために生きよう！団結の道』同時代社 (198+8頁,B6判)
- ⑪鳥居徹也著『親が子に語る「働く」意味』WAVE出版 (189頁,B6判)
- ⑫渋谷博史他編『アメリカの貧困と福祉』日本経済評論社 (vii+273頁,A5判)
- ⑬佐藤進著『E U社会政策の展開』法律文化社 (xi+200頁,A5判)
- ⑭慎斗範他著『韓国の政治社会と企業社会』ブレイン出版 (394頁,B6判)
- ⑮中野裕治著『ジェンダー型企業社会の終焉』文眞堂 (xii+212頁,A5判)
- ⑯荒木尚志他編『諸外国の労働契約法制』労働政策研究・研修機構 (xvi+431頁,A5判)

(新着受け入れ図書の詳細は、当機構ホームページの「労働図書館」内「新着図書情報」をご覧ください)

公共の図書館等では、来館者へのサービスとして映写会を開催しているところが多いのではないだろうか。当館ではまだその経験はないが、著作権法上の権利関係はどうなっているのだろうか。ビデオもその一つである映画の著作物の制作には多大の経費と人材を必要とするが、立地条件の良い図書館で上映会が開催されれば、近くの映画館の来場者は大きく減ってしまうのではないだろうか。著作権法「営利を目的としない上演等」の規定がある。「公表された著作物は、営利を目的としない場合、上映・できる」となっている。これは、上映会を開催する人たちに謝礼を払わないことが条件である。そうすると、図書館に限らず、無料の上映会は、著作権法上はなんら問題は無いことになる。しかし、前述したように、制作者側にとっては、無料の上映会は痛手が大きいので、日本図書館協会との間でビデオ上映に関して合意がなされている。当館では、ビデオ上映会の経験はないと申し上げたが、ビデオも収集図書館資料の一つとしている。新法人となつてビデオ収集は主要業務からははずれたが、研究員等からの要望に基づき細々ながら収集を継続しており、以前集めたビデオも所蔵し、利用に供している。そして環境が十全とはいえないが、館内で閲覧も可能である。また、前回記したように、映画の著作物は貸与権の例外となるので、権利者側の許諾をえて貸出も行っている。先般、当

今更の借りかた

図書館長のついで

機構ホームページ(H.P.)の「労働図書館」のページに「所蔵雑誌・紀要・新聞・ビデオリスト」を掲載した。ビデオも当館の貴重な所蔵資産である。H.P.のビデオリストをご覧いただきご利用いただければ幸いです。

灯火親しむ候となった。三夕の和歌のように、秋にはどことなく寂しい雰囲気がつきまとうが、秋の夜長は読書に最適な季節である。夏至を過ぎてからは、刻々と日没の時刻が早くなるが、本号が皆様のお手元に届く頃にはさらに秋は深まっていることになっている。読書三昧の生活を送るのを夢としてきたが、望むらくはだんだん日が短くなる中ではなく、高級ホテルのプールサイドで冷えたカクテル片手とは言わずとも、真夏の太陽がさんさんと輝く、海風が爽やかな浜辺のパラソルの下でのんびりと、時間を気にせずに何日も読書を堪能できたらどんなに気持ちいいことだろう。浜辺にもついでいくための文庫本も着々と収集しているが、宮使いの身、思い通りに夏休みをとるのは難しい。自分がいらないと図書館がなりたないなどとはほとんど思わないが、そして有給休暇もするほど蓄積しているのだが、小心の小才には、長期間の夏休みをとるのは、ライオンの檻の中に入るより勇気が必要とするように感じる。やはり、秋の夜長に少しづつ味わいながら読書するのが性にあっているのだろう。読者の皆様には是非当館の図書で灯火に親しんでいただきたいと願っている。秋にふさわしい図書も見つかるはずである。

当図書館は、社会科学関係書をを中心に和書97,000冊、洋書25,000冊、和洋の製本雑誌20,000冊を所蔵している労働関係の専門図書館です。労働関係の分野には、労働法、労働経済、労働運動、雇用職業、女性労働、パート派遣、高齢者労働、障害者労働、外国人労働、社会福祉などがあり、これらで、蔵書の半数以上を占めています。この他にも、経済書をはじめ経営学、心理学、教育学、社会学など関係分野に及んでいます。また、和雑誌(490種)、洋雑誌(220種)、紀要(450種)、組合機関誌・紙についても、受け入れています。

ご案内
労働図書館(資料センター)

特色としては、厚生労働省をはじめとする官公庁発行の統計類などの逐次刊行物、日本経団連など経営者団体の刊行物や民間研究団体刊行物、社史があり、労働組合に関しては、労働運動史、ナショナルセンターや産業別組合の大会資料などを継続的に収集しています。洋書については、特にILO(国際労働機関)総会の議事録やOECD(経済協力開発機構)の刊行物、各国政府の労働統計書などを収集して閲覧に供しています。特殊コレクションは、戦前・戦後を通して労働組合の歴史的に貴重な原資料を収集、保管しています。

開館時間:9:30~17:00

休館日:土曜日、日曜日、国民の祝日、年末年始(12月28日~1月4日)、その他

電話番号:03(5991)5032/FAX:03(5991)5659

利用資格:どなたでも利用できます

貸出:和書・洋書とも2週間、5冊までです

※身分証明書(運転免許証、健康保険証など)をお持ちください

レファレンスサービス:図書資料の所在調査などのサービスを行っています